

風紋



子ども理解のテキスト

静岡大学助教授

馬居政幸

昨年（一九九三）の一月、私は同僚の若い三人の先生方と共に韓国を訪問した。私は二十数度目だが他の先生は初めて。三人を案内するのが私の役割であつたが、その時間をぬつてソウル市内にある図書出版大元の黄卿泰編集部長と懇談した。

彼は日本の集英社との正式契約により『少年ジャンプ』の人気漫画『スマッシュ』を掲載した少年漫画雑誌『少年チャンプ』の編集総責任者、私の最も親しい韓国の友人である。

彼はいつも私に、韓国文化に根ざした漫画を子供たちに提供する計画を熱っぽく語ってくれる。その手本が日本の漫画。彼の夢は自分が育てた韓国の若い味の重さが理解されよう。

日本『少年ジャンプ』の発行部数は約六百万部。これが毎週全国の店頭に並ぶ。その主要読者層である十~十四歳と十五~十九歳の男子の数は、平成二年度の人口統計でそれおよそ四百四十万と五百十万。この人口数値と、漫画雑誌は通常回し読まれ、人気漫画は単行本や映像（アニメ、ゲーム）メディアに加工される事実を重ね合わせて考えれば、週六百万部の意

雑誌により韓国の子どもたちにもほぼリアルタイムで紹介される。さらにジャンプ六百万部の原動力となつた「ドラゴンボール」が正式契約により出版されている国は六か国。無許可で翻訳出版されている国の読者を入れば、ジャンプブランドの漫画の世界の読者数は計り知れない数字になるであろう。

新しい学力観のキーワードは「子どもの良さ」。だがその子どもは理念的・抽象的な存在ではないはず。一人一人異なる今を現実に生きており、大人と比較にならない早さで日々変化成長する存在である。特に、思春期の変化は激しい。この思春期を挟んだ小学校高学年から中・高校生を主要読者層として、表現・編集されているのが日本の少年・少女漫画雑誌である。

今回の韓国への旅をともにした同僚は、大学の教官室で毎日

加えて、その漫画は黄部長の筆により韓国の子どもたちに思っていた。だがソウル市の街角で、訪韓歴二十数回の私が気づかない観察結果を次々と教える。韓国という場が私

もあう仲。互いに良く知っていると思っていた。だがソウル市の街角で、訪韓歴二十数回の私が子どもと同じではないか。毎日教室で目に子どもの姿が、その子の個性と能力を存分に發揮したものになっているだろうか。その子に応じた表現の場を用意できているだろうか。教師の期待（ラベリング）の反映になつていいだろうか。

6

風紋

- 子ども理解のテキスト 馬鹿政幸
教育実習の頃 滝富夫
クラス会に想う 細水保宏

特集／自分をつくる力

(提起文) 長谷川康男

- 自分をつくる——その原理と方法 國分康孝
自己を創造する 松木正子
学ぶ価値と活動 田中力

- 「自分をつくる力」・新たな理念づくりと内容の再編成 佐々木達行
たくましく生きる力 白石範孝
自分を知ることが自分をつくる 塚田耕三

- 国立科学博物館を訪ねて 森田和良
〈教育問題を考える〉「史上最低」と「史上最高」 加藤地三
編集部特別企画／四年・理科 坪田耕三
〔教育情報と解説〕幼・小学校の月二回五日制 有園格

- 〔教育問題を考える〕「共感と自立」——授業での試み—— 藤木和男
52



連載

- 図画工作科・体験的図画工作科教材開発法(2) 山本悟
道徳・道徳の授業時間を納得する(2) 宮野文隆
研究発表(国語科・社会科・算数科)

学校空間を生かした音読発表会

おにぎりのひみつ

追究型の授業を創る

らくうしょう	
ちょつといい話 山本悟	41
使つてみませんか 宮野文隆	42
自然観察 鈴木康幸	43
グラビア 長谷川・露木	3
彌生 正木孝昌	9
ブックバンド 細水・坪田	40
ファインダー 白石範孝	49
創作童話 西村祐見子	
こどもの日 白井忠雄	
教育フロッピー 白石範孝	
授業のアイディア 明星小学校：菅野秀二	
絵葉書だより・細巻後記 坪田・長谷川	
表紙を語る 山口喜雄	